

職業奉仕委員会

職業奉仕委員会 委員長 島田 敏郎（富士見RC）



職業奉仕は、他のクラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕と比べて「わかりづらい」「難しい」といった声をよく耳にします。職業奉仕はロータリー固有の考え方であり、特に日本のロータリークラブでは長い間、職業奉仕をロータリーの根幹として考え、その理念について盛んに議論がなされてきました。簡単に言ってしまうと、職業奉仕とは、「職業を通じて他者のためになることをすること」です。ロータリーは職業人の集まりですから、会員の皆様が普段の業務において「より良い品質」や「より顧客の満足度を高めるもの」を追求されている、それこそが職業奉仕なのです。

近年の国際ロータリーでは、職業奉仕をロータリーの五大奉仕の第二部門として改めて位置付けて考え、その実践に重きを置くという風潮が強まっています。2016年の規定審議会では、職業奉仕部門の定義が改定され、新たに「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる」という文言が追加されました。つまり職業奉仕については、その理念についてを議論し理解を深めるだけでなく、具体的な活動として取り組むことが求められているのです。

さて、職業奉仕委員会の次年度活動方針といたしましては、

- ①職業奉仕について、標準的な考え方を会員の皆様にお伝えするべく、卓話モデルの更なる充実を図ること。
- ②職業奉仕の実践について、各クラブへの事例紹介や助言を行うことを目標として掲げてまいりたいと思います。

会員の皆様にロータリーの誇るべき伝統的な考え方である職業奉仕についてより理解を深めていただき、より積極的に職業奉仕を実践していただけるよう、職業奉仕委員会全員でサポートしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。